「平成３１年度（令和元年度）全国学力・学習状況調査」の結果について

【富里北中学校】

平成３１年４月１８日（木）に，小学校第６学年全児童，中学校第３学年全生徒を対象として，「全国学力・学習状況調査」が実施されました。本校の結果についてお知らせします。

１　生徒が受けた調査について

「国語」，「数学」，「英語」，「生徒に対する質問紙調査」の調査が実施されました。それぞれの内容は下記のとおりです。

（１）教科に関する調査　〔下記（ア）と（イ）を一体的問う〕

（ア）　身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や，実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等

（イ）　知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や，様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※出題範囲：原則として調査する学年の前学年までに含まれる指導事項

（２）生徒に対する質問紙調査

学習意欲，学習方法，学習環境，生活の諸側面等に関する調査

＊調査問題は「国立教育政策研究所」のＨＰで閲覧できます。

http://www.nier.go.jp/19chousa/19chousa.htm

２　本校生徒の調査結果

本校生徒の調査結果及び分析は以下のとおりです。

（１）教科の正答率について　〔※全国公立中学校の平均正答率（以下全国平均）との比較〕

国　語	学習指導要領に示されている３領域１事項（「話すこと・聞くこと」，「書くこと」，「読むこと」，〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕）に基づいて，その全体を視野に入れながら中心的に取り上げるものを精選して出題	B
数　学	学習指導要領第２章第３節数学における，「数と式」，「図形」，「関数」，「資料の活用」の各領域に示された指導内容からバランスよく出題	B
英　語	学習指導要領に示されている４領域（「聞くこと」，「話すこと」，「読むこと」，「書くこと」）に基づいて，その目標や内容を踏まえ言語材料や言語活動からバランスよく出題	B

☆全国平均正答率との比較について

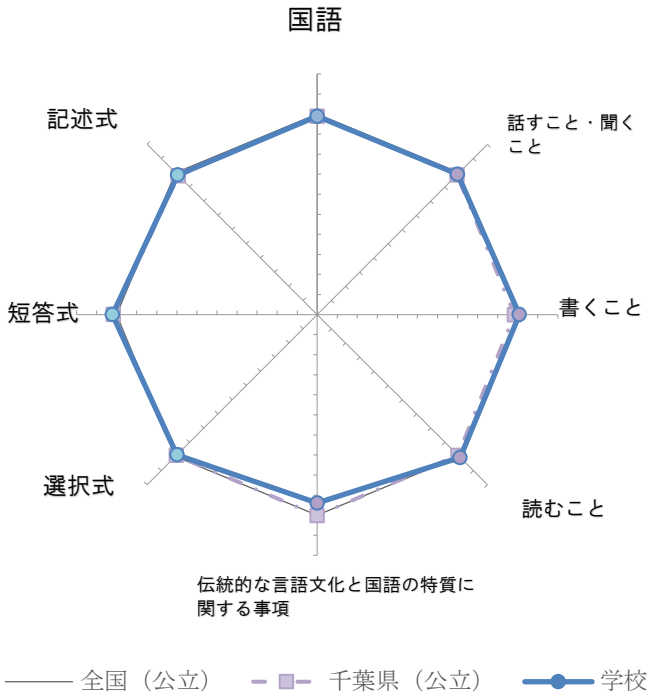
Ａ：＋５.０％より上回っている場合「良好」

Ｂ：＋５.０％～－５.０の場合「ほぼ同じ」

Ｃ：－５.０％より下回っている場合「要改善」

（２）教科ごとの分析

国　語



【特徴と現状】

○ 全体的には，全国平均とほぼ同じ正答率でした。

○ 文章に表れているものの見方や考え方について，自分の考えを持つ力が十分に身についており，「読む力」において平均を少し上回っています。

○ 「話すこと・聞くこと」の領域において，話し合いの話題や方向について捉えたり考えたりする部分に課題が見受けられました。

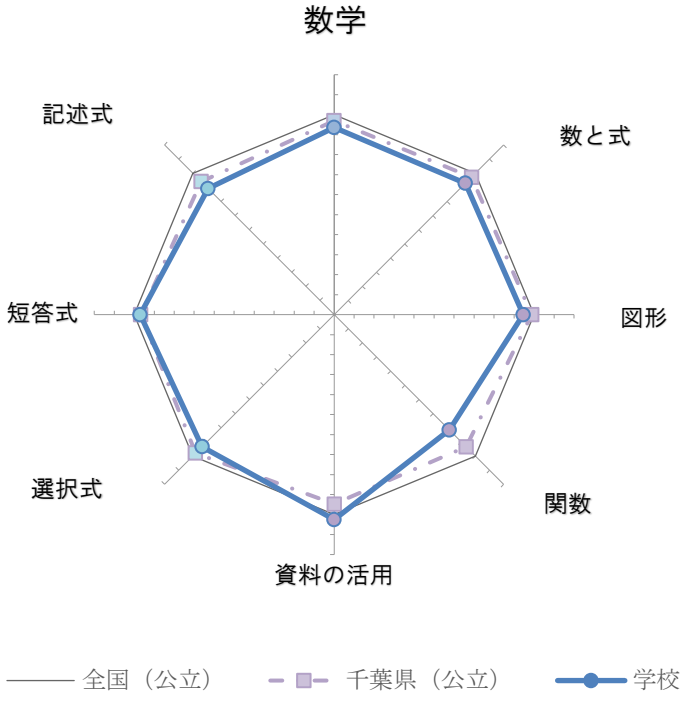
○ 国語の学習に対して「好き」や「大切だ」と答えている生徒が多く見受けられ，有用感が高い傾向にあります。

【改善方策等】

○ 説明や発表をする機会を多く設定し，自分の伝えたいことをまとめて分かりやすく伝える指導を充実させて，自分の考えを人に伝える力を身につけさせてまいります。

○ 引き続き読書活動を充実させ，文章を多く読む活動を通して，読解力の向上を目指してまいります。

数　学



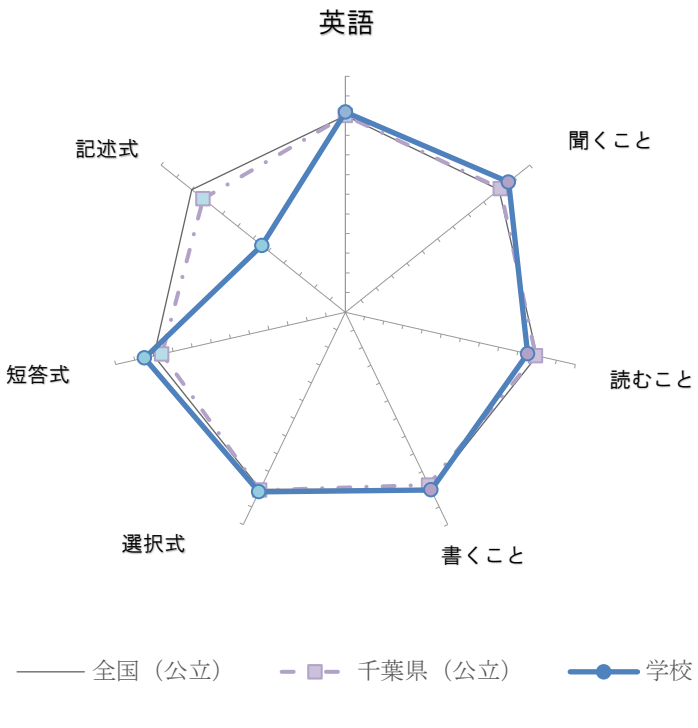
【特徴と現状】

○　全体的には，全国平均よりやや下回る正答率でした。
○　特に「記述式」の問題に課題が見受けられます。
○　確率を求める問題など「資料の活用」の分野については良好な結果でした。
○「数と式」の分野では，連立方程式を解く問題の正答率が高い反面，式の変形や四則計算の応用など思考力を問う問題について課題が見受けられました。
○「図形」の分野では理論的に考え，結論を導く証明の技能に課題が見受けられました。
○「関数」の分野に関しては，グラフを活用して考える問題の正答率が低くなっており，全体的に課題が見受けられます。
○　数学の学習が「好き」「大切だ」と考えている生徒の割合が，全国平均と比べて少ない傾向が見受けられます。

【改善方策等】

○「数と式」や「図形」の分野については知識や基礎的な技能が身についてきています。一方で知識を活用して考える力を育む必要があります。様々な視点から課題について考えさせ，生徒相互の学び合いを活かし，思考力を高めるための工夫をしてまいります。
○ グラフの表す意味などの「関数」の分野での基本的な事項の理解を図り，グラフを活用する問題に繰り返し取り組んで，数学的に説明する力を養ってまいります。
○ 数学を苦手にしている生徒の割合は全国平均と比べて少ない傾向にありますが，数学に有用感を持てない生徒の割合が多くなっています。身近な生活と結びつけた授業の工夫を行い，数学に対する興味を引き出し，前向きに取り組もうとする姿勢を持たせてまいります。

英　語



※ 機器の整備状況により「話すこと」の調査は実施しておりません。

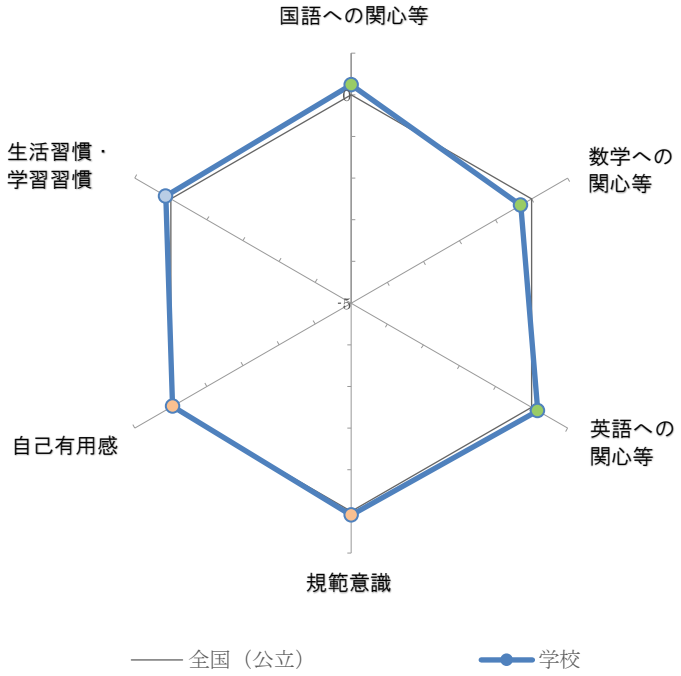
【特徴と現状】

○ 全体的には，全国平均をやや上回る正答率でした。
○ 「聞くこと」の分野に関しては，正答率の高い問題が多く，良好な成績を収めています。
○ 一方で「読むこと」の分野に関しては，やや正答率が低くなっており，英文の内容を正確に理解する力に課題が見受けられます。
○ 「短答式」や「選択式」の問題に対する正答率は高くなっていますが，「記述式」の問題に対する正答率が極端に低くなっている面に，課題が見受けられます。
○ 英語の学習に対する有用感を持つ生徒が多く，英語の学習や英語を使ったコミュニケーションに興味関心が高い傾向にあります。

【改善方策等】

○ 視聴覚教材や ALT の活用によって，「聞くこと」の力がついていると考えられます。継続した取り組みを行うことで，更に定着を図ってまいります。
○ 英文を読んで，概要や要点をとらえる活動を多く取り入れ，英文の内容を正確に理解する力を育み，「読むこと」の分野での向上を図ってまいります。
○ 英文を読んだり聞いたりした内容について，英語で書いてまとめたり自分の考えを英語で書いたりする活動を取り入れ，「記述式」の問題に対応できる力を養ってまいります。
○ スピーチやプレゼンテーションなど，英語を使った発表を取り入れることで，英語への親しみを持たせ，継続して興味関心が持てるよう工夫してまいります。

（３）生徒質問紙の結果及び分析



【特徴と現状】

家庭生活において，「朝食を毎日食べている」生徒の割合や「毎日同じくらいの時刻に寝ている・起きている」生徒の割合が全国平均と比較してやや上回っており，規則的な生活ができています。

家庭学習においては「普段の学校の授業以外の学習時間（塾等での学習も含む）」が１時間以上である生徒の割合が全国平均を上回っています。ただ，２時間以上学習している生徒の割合は若干下回っています。

本校の特色として「人が困っているときは，進んで助けます」や「人の役に立つ人間になりたい」と回答した生徒が多く見受けられました。一方で，「自分には，良いところがある」や「将来の夢や目標を持っている」と回答する生徒の割合が全国平均よりも少なくなっています。

３　まとめ

○ 家庭での規則正しい時間で生活ができていることが，学習面に向かう姿勢への支えとなっています。引き続きご家庭でのご協力をお願いいたします。

○ 本校では，家庭学習について入学時より「家庭学習ノート」の活用を薦め，毎日継続して取り組むよう生徒への呼びかけを重ねてきました。それに応えて生徒が努力をした結果，普段からの学習習慣が身についてきていると考えられます。日々の積み重ねが学力の向上に結びつくと考えられますので，ご家庭でのご協力もお願いいたします。